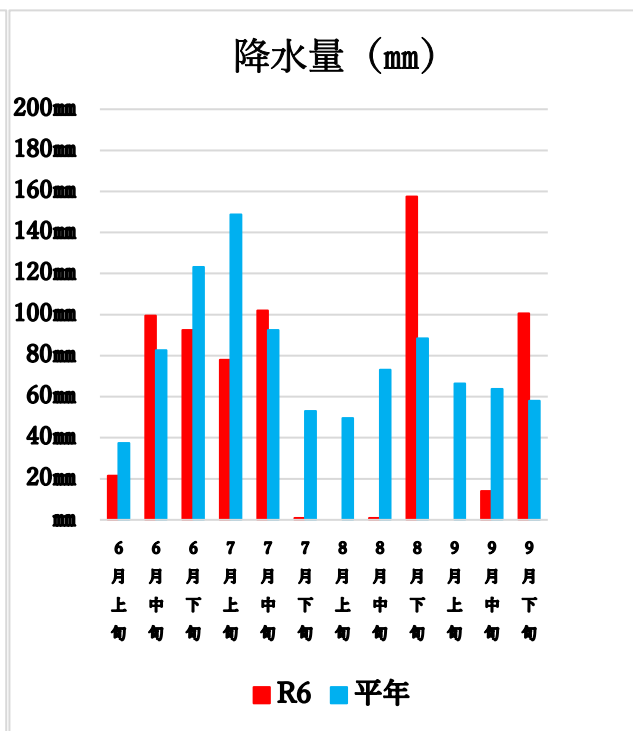
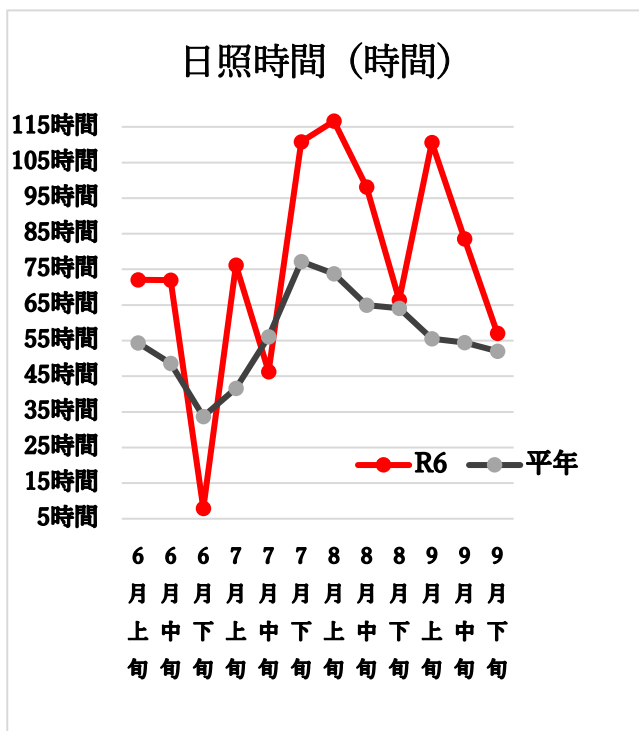
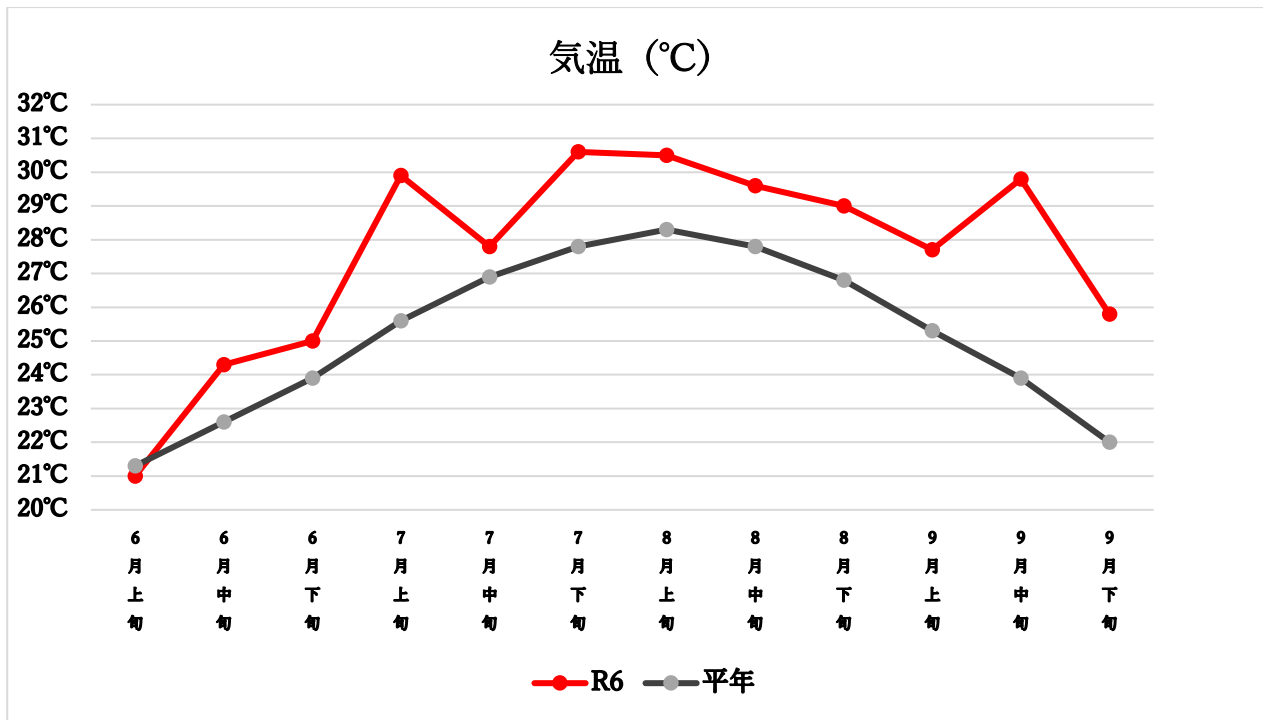


I 令和6年産稲作総括について

1. 生育期における気象条件（前原）



	6月			7月			8月			9月		
	気温(°C)	日照(h)	降水量(mm)	気温(°C)	日照(h)	降水量(mm)	気温(°C)	日照(h)	降水量(mm)	気温(°C)	日照(h)	降水量(mm)
令和6年	23.4	152.0	213.5	29.5	233.3	181.0	29.7	281.1	158.5	27.8	251.3	114.5
平年	22.6	136.8	243.3	26.8	174.9	294.1	27.6	202.9	211.0	23.7	162.0	188.0

2. 生育概要

令和6年産米は、6月～9月が高温傾向で経過したことから、品種・田植え時期により若干の差はあるものの、出穂期は平年より1～3日、成熟期は3～6日程度早くなりました。

作柄については、高温の影響で全般的に充実不足となり、概ね平年並み～やや不良と思われませんが、圃場によってばらつきが大きかったようです。

また、品質については、背白米等の白未熟粒やカメムシ類による斑点米が多く、全般的に低下しました。

なお、8月29～30日にかけて接近した台風10号により、一部圃場で倒伏や籾ずれが発生しましたが、程度は軽かったようです。

病害虫につきましても、全般的にカメムシ類以外は目立った被害はありませんでしたが、一部でコブノメイガによる葉の食害やもみ枯細菌病等による穂枯れ症状が見られました。

【検査結果】 (%)

品 種 名	等 級		
	1等	2等	3等
夢つくし	0	56.9	43.1
元気つくし	65.3	34.7	0
ヒノヒカリ	0	64.6	35.4

3. 病害虫の発生状況

(1) トビイロウンカ (秋ウンカ)

飛来回数・量ともに少なく、加えて箱施薬剤の効果もあり、一般圃場では発生は見られませんでした。しかし、**箱施薬剤を散布していない圃場**では、極一部ですが「**坪枯れ**」が発生し、改めて**箱施薬剤の有効性が確認**されました。

(2) セジロウンカ (夏ウンカ)、コブノメイガ

トビイロウンカ同様セジロウンカの発生は見られませんでした。コブノメイガによる食害葉がやや目立った圃場がありました。

(3) イネカメムシ

令和5年に比べ発生量はやや少なかったと思われませんが、地域によって発生量に差があり、品位検査においても特徴的な「**基部加害型の斑点米**」が目立ったことから、引き続き警戒が必要です。



(4) 斑点米カメムシ類

暖冬に加え、夏期の高温・乾燥傾向が続いたため、発生が多くなりました。**次年度も畔草管理と合わせた総合的な防除**を心掛けてください。

(5) いもち病・紋枯病

いもち病の発生は例年より少なかったようですが、紋枯病については、8月下旬以降、病斑が上の方に登ってきている圃場が見られました。**発生が多かった圃場は、紋枯病が対象となっている箱施薬剤の使用**をお勧めします。

(6) もみ枯細菌病

出穂・開花期頃の高温と降雨、さらに強風等により発生が多くなります。令和6年も台風後に発生が増加し、一部の圃場で多発生となりました。

II 令和7年産稲作について

異常気象対策＝基本技術の徹底

令和6年は、最高気温35℃以上の猛暑日が長期間続き、**記録的な「酷暑」**に見舞われました。稲の生育にとっても大変厳しいものとなりましたが、このような時こそ、土づくりやきめ細かな水管理等の基本技術を徹底し、**稲の健康を保ってあげることが極めて大切**になります。

1 土づくり

① ケイ酸の施用

稲はケイ酸植物といわれ、窒素の10倍も吸収します。ケイ酸を施用すると、過度の蒸散を抑えるとともに、葉が硬く直立するので**光合成の効率が良**くなります。さらに、**倒伏防止**や**いもち病**、**その他の病害虫に対しても抵抗性を高める**ことができます。

ミネラルGはケイ酸や鉄などをバランス良く含んでいますので、**土づくりに最適**です。

※「散布するのが大変・・・」そんな時はJA受託作業がお手伝い！

お問い合わせ先：JA福岡市東部本店 営農生活課：都地・八尋

電話番号：621-4696

② 作土深の確保

稲の根が伸びて行き、養分を容易に吸収できるところが作土です。**作土が浅い場合は**根の育つ範囲が狭くなって十分に伸びることができないため、収量も思うようにあがらず、**異常高温などの気象変動に対しても弱**くなります。作土が浅くなっている場合は、13cm以上、できれば**15cm程度を目標**に年々少しずつ深くしていきましょう。

当JA管内の田は砂壤土が多く、全般的に養分の保持能力が弱いので、作土を深くして根が伸びる範囲を大きくすることで改善できます。

2 水管理

水管理の基本は、適度の中干しと間断灌水です。特に、**中干し後は間断灌水を継続すること**で根の健全化が図れ、**田の硬さを維持しながら落水を遅らせることができるので、最後まで米粒が充実していき**ます。**早期落水は登熟障害を助長**しますので、可能な限り遅くしましょう。

【水管理の大事さを表すことわざ】

① 一水二肥

② 水見半作

③ 青田から飯になるまで水加減

3 追肥施用（養分補給）

令和6年は、**基肥一発肥料を施用していた圃場でも葉色が低下し、追肥が必要になった圃場が散見**されました。**高温が続く時に養分不足になると稲が弱**ってしまい、光合成が十分にできなくなり、**品質・収量の低下**につながります。

追肥 出穂前10日頃 化成48号など 10kg/反

Ⅲ 玄米保管の留意点について

自宅で玄米を保管していただく際、予冷庫に入れる方と納屋等倉庫で保管される方がいらっしゃると思います。予冷庫で保管される場合は、玄米に虫等につきにくい状態で保管されますので、年間通じて安全に保管することができます。

納屋等で保管されている場合は、**納屋内の環境によっては湿気で虫がついたり、玄米にカビがついたりすることがありますので、特に注意して保管してください。**

※内容についてのお問い合わせは、JA 福岡市東部 営農生活課 水城・井手口(621-4696)までご連絡ください。**稲作講習会への出席もお待ちしております。**

営農情報について

①最新の情報を LINE でお届けいたします。

営農情報（稲作だより等）を「JA 福岡市東部 営農情報」の LINE でも発信しております。**下記の QR コードから LINE のご登録をお願いいたします。**



② 稲作だより等の情報が下記のQRコードよりご覧いただけます。

